

# 尼崎の環境－平成30年度版－(概要版)

■表記の説明



…改善傾向/取組が大きく進んだ



…横ばい/取組が進んだ



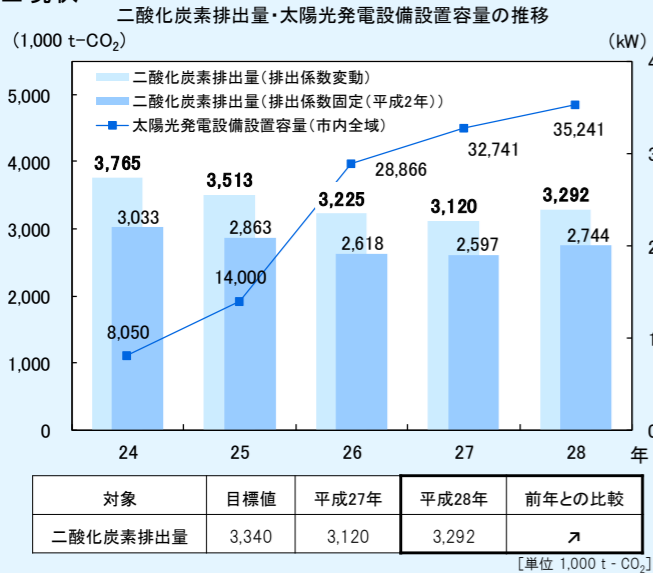
…悪化傾向/取組が進まなかった



…計画目標を達成した

## 目標1 低炭素社会の形成

### ■現状



### ■平成29年度の主な取組・成果

- ・二酸化炭素排出量は引き続き減少傾向にあり、平成28年度の推計値(速報値)は計画目標を達成しました。なお、平成27年度の市の取組による削減量は26,502 t-CO<sub>2</sub>(再エネ関係: 16,529 t-CO<sub>2</sub>、省エネ関係: 9,973 t-CO<sub>2</sub>)でした。
- ・業務・産業用燃料電気の導入に対する補助を実施し、市内初の導入を実現しました。
- ・尼崎版スマートコミュニティ認定制度に基づく第1号認定事業において、経済的インセンティブとして地域通貨ポイントを活用した取組により二酸化炭素排出量の削減と地域経済の活性化の両立が確認できました。
- ・安全・安心して自転車を利用できるよう「尼崎市自転車のまちづくり推進計画」の策定や臨海部と鉄道各駅のアクセスの向上を図るため、コミュニティサイクルの社会実験などを行いました。

### ■評価と今後の取組の方向性

- ・二酸化炭素排出量は減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、部門ごとの課題に取り組んでいきます。
- ・国内外の地球温暖化対策を取り巻く状況の変化に対応するため、尼崎市環境モデル都市アクションプランと第2次尼崎市地球温暖化対策地域推進計画の整理・統合を行い、新たな計画を策定します。



## 目標4 多様な生き物の生息(生育)環境の保全

### ■現状

生物の生息・生息環境と市民の興味・関心の状況

対象	平成28年度	平成29年度	前年度との比較	
緑の面積	448.7 ha	447.9 ha	↘	
市有施設におけるブラックリスト種(兵庫県)の使用	0件	0件	→	
民有施設におけるブラックリスト種(兵庫県)の使用	0件	0件	→	
環境基準の達成状況	BOD	100 %	100 %	→
	DO	88.9 %	100 %	↗
	Zn	100 %	100 %	→
	NP	100 %	100 %	→
	LAS	100 %	100 %	→
生き物に関する講座・イベントの実施回数	26回	46回	↗	
身近な自然・生き物を大切にしている市民の割合	66.0 %	66.0 %	→	
市民農園の面積	19,672 ha	19,819ha	↗	

### ■平成29年度の主な取組・成果

- ・緑の面積については、開発事業に伴う緑地面積は増えましたが、農地面積が減ったことなどにより、全体としては減少しています。その他の項目については、改善・横ばいの状況となっています。
- ・あまがさき環境オープンカレッジと協力して、兵庫県版レッドデータブックに掲載されているヒメボタルの幼虫調査や鳥類の見分けなどが学べる講座を開催しました。
- ・本市の自然に関心を持つ機会として、市内の中学生を中心に市民・事業者と協力して「身近な生き物から見た尼崎の自然調査」を実施しました。
- ・都市農地を維持・保全し、意欲ある農業者を育成していくため「認定農業者制度」を創設しました。

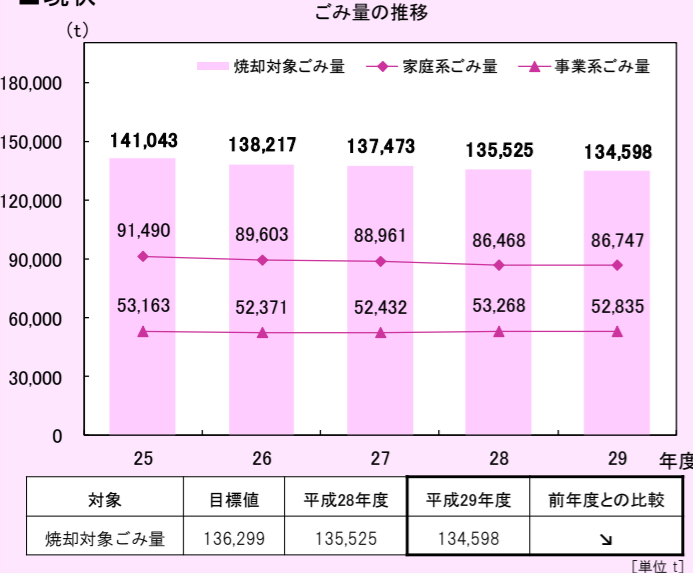
### ■評価と今後の取組の方向性

- ・ヒメボタルの幼虫調査については、継続的な調査を行うことで、生息場所・条件がどのようなものか、どういった対策が生息環境の保全につながるのかといった基礎的な情報の蓄積につなげていきます。



## 目標2 循環型社会の形成

### ■現状



### ■平成29年度の主な取組・成果

- ・焼却対象ごみ量は減少傾向にあり、平成28年度に引き続き、計画目標の達成が継続しています。
- ・小学生向けのごみに関する啓発である「子どもごみマスター制度」の運用を民間団体に委託することにより、学校への働きかけが行われ、初めて市内全小学校で講座を実施することができました。
- ・食品ロス削減を進めるために事業者への広報を実施しました。
- ・市民が排出するごみの減量・リサイクルを推進していくため、「収集日カレンダー」や「出し忘れ防止アラート」などを搭載した「ごみ分別アプリ」の配信を始めました。

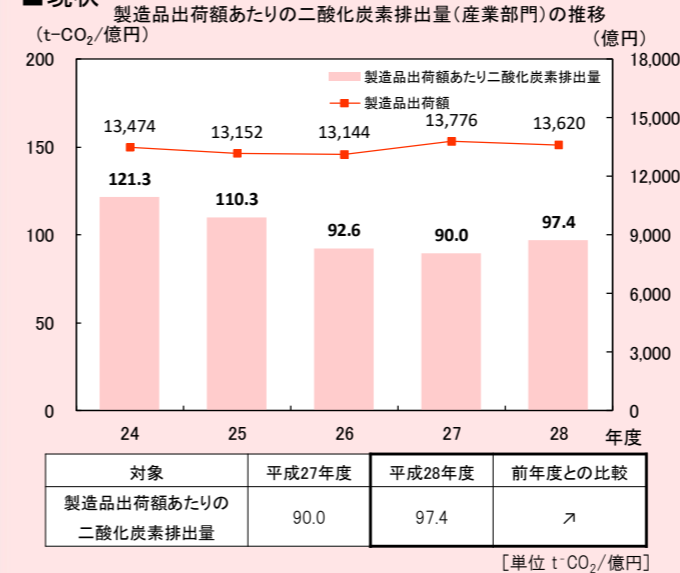
### ■評価と今後の取組の方向性

- ・焼却対象ごみ量は、市民・事業者の様々な取組や人口の減少などにより減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、更なる改善を進めていきます。
- ・「子どもごみマスター制度」に基づく講座の市内全小学校での実施を定着を目指すとともに、食品ロスの削減について学べる講座の実施を検討していきます。



## 目標5 環境と経済の共生

### ■現状



### ■平成29年度の主な取組・成果

- ・尼崎版グリーンニューディールの成果は、二酸化炭素削減量が257.3 t、経済波及効果が6億1千3百万円でした。
- ・あまがさき環境オープンカレッジで、環境に取り組む市内の工場見学としてエコ社会見学ツアーを実施しました。
- ・市内でエコな活動に取り組んでいる団体やエコな製品を製造している事業者などを市内外にPRしていくために、「ECOミュージアムシティ尼崎マップ」を作成しました。

### ■評価と今後の取組の方向性

- ・製造品出荷額あたりの二酸化炭素排出量は長期的には減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、取組を進めていきます。
- ・更なる指標の低減を目指すためには、本市の産業構造を踏まえた対策が必要となることから、二酸化炭素排出量が多い業種を把握し、製造品出荷額の増加・維持と二酸化炭素排出量の削減対策を両立させるための手段について検討を行います。



## 目標3 安全で快適な生活環境の保全

### ■現状

環境基準の達成状況

対象	目標値	平成28年度	平成29年度	前年度との比較
大気	100	95.4	93.8	↘
水質(河川・海域)	100	97.1	97.9	↗
水質(地下水)	100	99.0	99.0	→
騒音(自動車)	100	98.2	98.4	↗
騒音(航空機)	100	100	100	→
騒音(新幹線)	100	91.7	91.7	→
ダイオキシン	100	100	100	→

[単位: %]

### ■平成29年度の主な取組・成果

- ・平成28年度に初めて市内の全測定局で環境基準を達成した微小粒子状物質(PM2.5)については、平成29年度も引き続き、達成が継続されています。
- ・過去に改善命令を出した事業者を含め、継続的に立入調査などにより監視・指導を行っています。
- ・安定器などのPCB廃棄物の処理については法に基づく期限内処理の達成に向け、保有状況の調査や指導を継続します。

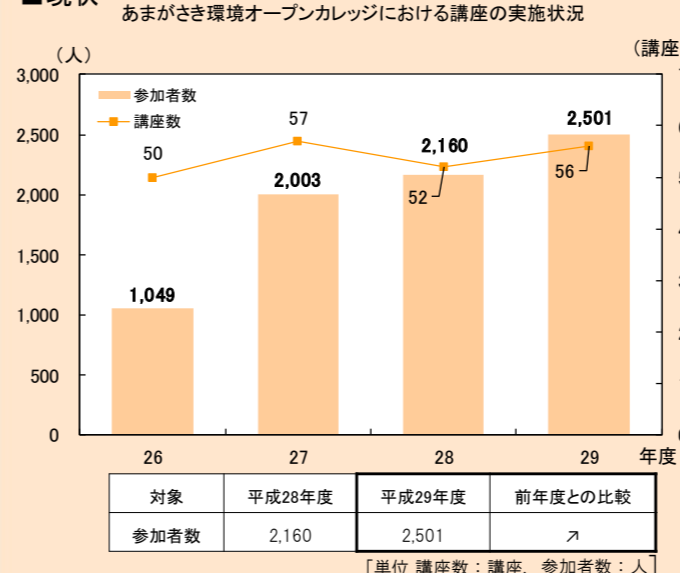
### ■評価と今後の取組の方向性

- ・環境基準については概ね達成できている状況が続いているため、現状の取組を基本としながら更なる改善を進めていきます。



## 目標6 環境意識の向上・行動の輪の拡大

### ■現状



### ■平成29年度の主な取組・成果

- ・あまがさき環境オープンカレッジでは子どもから大人まで幅広い層を対象とした環境に関する講座やイベントが行われており、平成28年度に比べ新たに15団体と連携することができました。
- ・環境問題についてより深く学ぶために、本市において公害行政に携わっていた元職員からの話などを聞くほか、本市をフィールドとして生物多様性を学ぶための講座を開催しました。

### ■評価と今後の取組の方向性

- ・あまがさき環境オープンカレッジにおける講座への参加者数については、増加傾向にあるため、引き続き、あまがさき環境オープンカレッジを通じて、尼崎市環境基本計画の施策に沿った環境啓発・学習を進めていきます。
- ・公害の状況について学べる講座についてはプログラム化を検討していきます。

